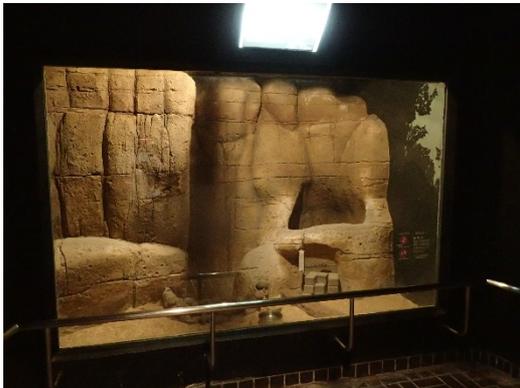


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

| | |
|------------------|-------------------|
| 平成 26 年 8 月 22 日 | |
| 所属部局・職 | 野生動物研究センター・修士課程学生 |
| 氏名 | 松島 慶 |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 愛知県名古屋市 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| アルマジロの生態研究 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 26 年 6 月 21 日 |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 名古屋市東山総合公園・東山動植物園 |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 実際にフィールドに行き調査を行う前段階として、調査対象動物であるアルマジロとはどういった生き物なのかということをよく知ることは大切なことである。今回は、比較的日本国内の動物園にて多く展示されているミツオビアルマジロ属のマタコミツオビアルマジロ (<i>Tolypeutes matacus</i>) の観察を東山動物園にて行った。 今回の観察は準備期間が短かったため、飼育担当の方と面会することはできず、展示を眺めるだけとした。滞在時間は 12:00 ごろから 15:00 ごろ。飼育されているアルマジロはマタコミツオビアルマジロ 2 頭であり、雄雌のペアが同じケージ内で飼育されている。展示場所は自然動物館の夜行性動物エリアであり、フロアの照明は暗くなっているが、ケージ内は弱い照明で照らされている。 滞在中に以下のようなことが観察された。 <ul style="list-style-type: none">・足は短い、動かすペースが速く、動きが早い。・動きを止めているときは体を丸くしていることが多い。・後脚でおがくずを蹴るようにして集めていた。・雄と雌がじゃれあうようなしぐさが見られた。・後脚だけで立ち上がることもある。・フンは、直径 5mm 程度の粒状。(ただし、近づくとすることはできなかったため、正確なサイズは不明) 今の段階では、あまり深い考察をすることは難しいので、記録するに留めることとした。今後、具体的な研究テーマを決める際に参考にしていきたい。 |
|  |
|  |
| 飼育ケージの様子とフンの様子 |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



おがくずを蹴り上げるようすとその跡



丸くなる様子とじゃれあう様子

6. その他 (特記事項など)